将来にわたって、自ら考え、判断し、行動する力を育成する放射線教育の在り方

西郷村立羽太小学校　（代表）　校長　西牧　泰彦　　教諭　野口　隆志

１　研究の趣旨

東京電力福島第一原子力発電所の廃炉まで３０～４０年と言われ、原発事故後５年以上が経過する中、放射線の問題は、未だに福島県民にさまざまな影響を及ぼしている。一方、除染作業が進み、児童の屋外での活動制限も全県下で解除された。こうした流れの中で教職員を含め、児童、保護者、地域住民の放射線に対する危機意識は時間の経過とともに低くなってきていることは否定できない。

こうしたことから、原発事故による放射線の問題を正しく理解し、生涯にわたって安全な生活ができるようにするため、発達段階に応じた基礎的な知識を身に付け、将来にわたって、適切な行動を取ることができる児童の育成が重要である。そのため、継続して放射線教育を推進していくための小学校６年間及び中学校３年間を見通した系統性を明確にした指導計画の作成と指導手法を確立することは重要かつ喫緊の課題である。

本校おける放射線教育の目標

児童が放射線の性質や危険性を正しく理解し、生涯にわたって安全な生活を送ることができるようにするために、基礎的な知識を身に付けるとともに、適切な行動をとることができるようにする。

２　研究の概要

(1)　課題の明確化
　①　児童アンケートの結果並びに児童の実態把握の分析と考察
　②　保護者アンケートの結果の分析と考察
　③　教職員アンケート結果の分析と考察
(2)　本校における放射線教育推進の視点の設定
　①　長期的視野に立った放射線教育の実践
　②　児童が放射線に関する基礎的な知識を理解し、将来にわたって実生活に活用できる資質や能力、態度の基礎を育む。
　③　教員が抵抗なく指導できる放射線教育の確立
(3)　放射線教育全体計画・指導計画の見直しと改善
(4)　系統性を明確にした「計画仮キュラム」の作成
　①　小中の系統性を明確にした指導テーマの設定
　　○　低学年テーマ：「放射線を知る」
　　○　中学年テーマ：「放射線と向き合う」
　　○　高学年テーマ：「放射線と共に生きる」
　②　「計画仮キュラム」マネジメントシートの作成と活用
(5)　授業実践の概要
　①　本校の目指す授業像
　　○　生活科、総合的な学習の時間における問題解決的な学習を通して、自ら考え、判断し、行動する力を育成する授業
　②　教育課程への位置付け
　　○　１・２年生…生活科　３年生以上…総合的な学習の時間　※年間、各学年２時間
　③　授業の実際(第５学年の実践より)

３　成果と今後の課題

(1)　成果
　①　「計画仮キュラム」の視点の設定により、児童の実態に基づいた系統性を明確にした『計画カリキャラム』を作成することができた。
　②　事後の児童アンケート調査結果より、児童の放射線に対する興味・関心が高まり、放射線に関する基礎的な内容についての理解が確実に深まっていることが分かった。
　③　教員が抵抗なく実践できる授業の在り方として、県教委作成の放射線教育用学習教材（DVD)、文科省「放射線について考えてみよう」や「小学生のための放射線副読本」、環境省の「調べてなっとく放射線」の資料等を有効に活用する授業の形を提案することができた。
(2)　課題
　①　児童や地域の実態に対応したカリキュラム編成
　　○　東日本大震災、原発事故を知らない児童の入学に備えた放射線教育の充実
　　○　児童の学びの履歴と課題意識に基づいた構想の工夫
　②　カリキュラムマネジメントによる付加価値のある教育の推進
　　○　「○○教育」の並列的実践による学校経営から「○○小ならではの教育」への転換
　③　小中連携を軸とした教育の推進
　　○　９年間で地域に学び、地域に生きる児童生徒の育成
　④　家庭・保護者への啓発と連携
　　○　児童の学びや変容に即応した家庭・保護者の教育力の醸成